

## WAVERIDER取扱い説明書 (v3.02)

WaveRiderは未だかつてなかったタイプの、ユニークで強力なAAXプラグインです。  
WaveRider v3を最大限に活用するためにも、このドキュメントをお読みになることを推奨します。

Pro Tools®の設定:

Wave Riderはバーチャル フェーダーコントローラーです。そのため、以下の簡単な設定をPro Toolsで行う必要があります:

設定(Setup) → ペリフェラル(Peripherals)を開き、「MIDIコントローラー」タブをクリックします。  
(まだMIDIコントローラーを設定していない場合は、すべて「なし」になっています。)  
「タイプ」欄のポップアップメニューから「HUI」を選択します。

### MIDIポート設定

#### MAC:

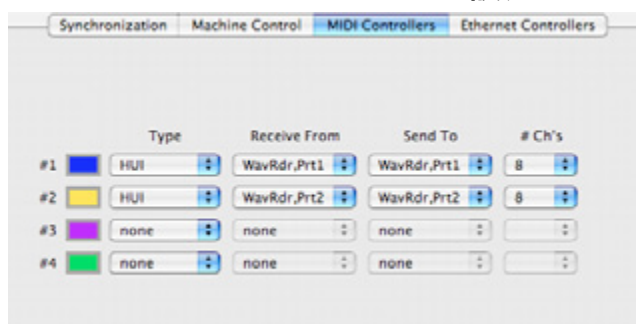
受信元と送信先で  
事前に定義されたもの >  
「Wave Rider Ch 1-8」を選択します。

#### WINDOWS:

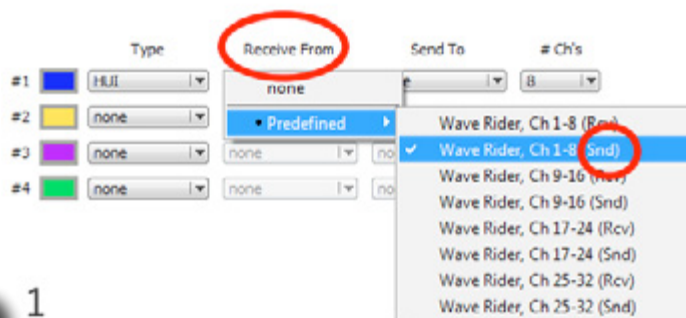
受信元で  
事前に定義されたもの > 「Wave Rider Ch 1-8 (Snd)」を選択します。  
送信先で  
事前に定義されたもの > 「Wave Rider Ch 1-8 (Rcv)」を選択します。

もし8チャンネル以上をコントロールしたい場合は、次の列でさらに受信元と送信先に8チャンネルのバンクを設定していきます。Euconコントローラーを使用しているシステムや、他にコントローラーがないシステムでは、4バンクすべてにWaveRiderを設定することができます。しかし、Icon、Pro Control、C24、または002/003シリーズのコントローラーを使用している場合は、8トラックしか設定できません。詳細は「他のコントローラーとの共存」の記述をご参照ください。

### MACでのペリフェラル設定



### WINDOWSでのペリフェラル設定



WAVERIDERポートが表示されない場合:

インストール後にコンピューターを再起動してください。  
WINDOWSでは、Pro Toolsを管理者として実行してください。

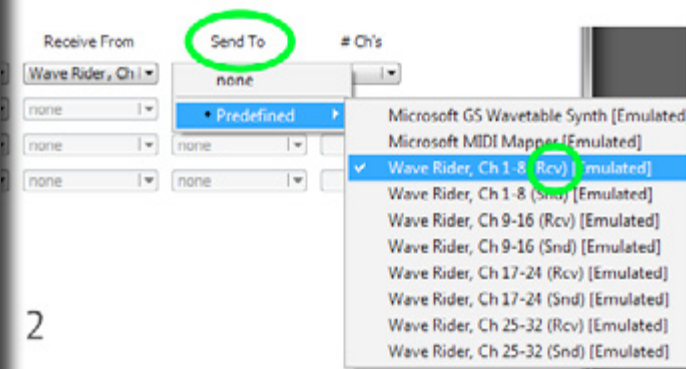


それでもMacでポートが表示されない場合は、システムディスク内の/Library/Audio/MIDI Driversを開き、WaveRiderDriver以外をすべて別の場所に移動してからログアウト、再ログインしてください。その後、移動したファイルをすべて元に戻し、再度ログアウト、ログインしてください。

Windowsシステムでは、ポートを誤って逆に設定してしまうことがよくあります。「Snd」は受信元、「Rcv」は送信先に設定してください。

1

2

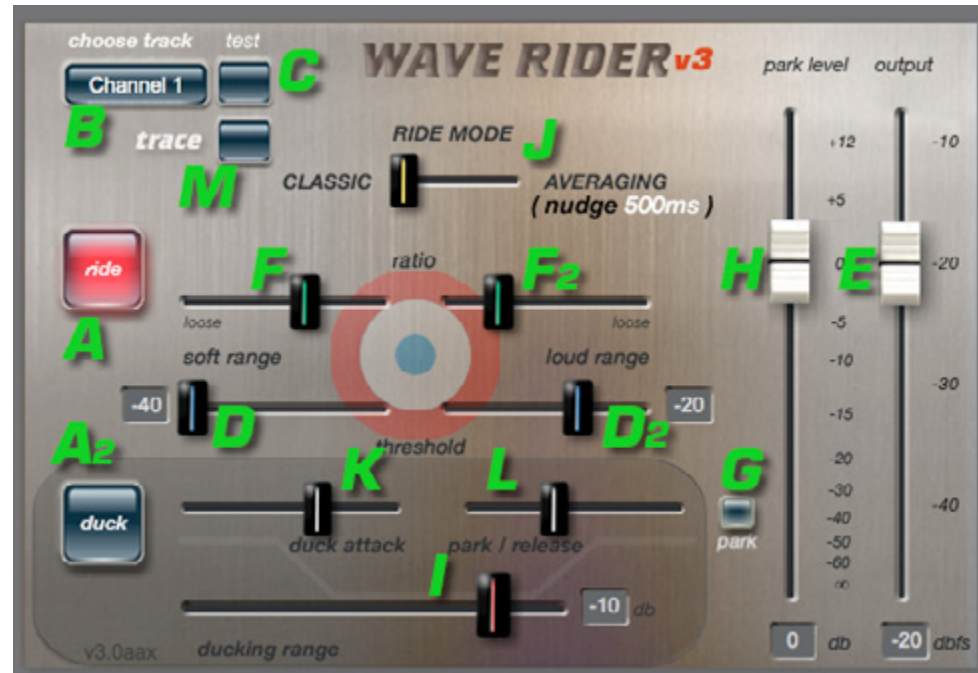


リアルタイム精度を保つには:

PRO TOOLS 10: 推奨プレイバックエンジン設定: 1024サンプル  
PRO TOOLS 11&12: 推奨プレイバックエンジン設定: 128-512サンプル



(Wave RiderはLatch(ラッチ)モードで動作するように設計されています)



- A: ライドモード選択
- A2: ダッキングモード選択
- B: チャンネル選択
- C: テスト ボタン
- D: ソフトレンジ スレッシュヨルド
- D2: ラウドレンジ スレッシュヨルド
- E: ターゲットレベル
- F: ソフトレンジ レシオ
- F2: ラウドレンジ レシオ
- G: 無音時パーキング ボタン
- H: 無音時パーキング レベル
- I: ダッキングレンジ
- J: ライドモード選択
- K: ダッキング アタックタイム
- L: ダッキング リリース/パーキング タイム
- M: トレースモード選択

(A) ----- "RIDE"(ライド)機能はWaveRiderのデフォルト機能です。挿入されたトラックの入力レベルを検知し、そのトラックのボリュームオートメーションを制御することによって、トラックの出力レベルを一定に保ちます。

(A2) ----- "DUCK"(ダッキング)モードは、挿入されたトラックの信号レベルに応じて、コントロールされているトラックの音量を落とします。

(B) コントロールするトラックを選択する必要があります。デフォルトでは「OFF」に設定されているため、コントロールしたいトラックの番号を必ず選択してください。WaveRiderは、挿入されているトラックだけでなく、どのトラックでもコントロールできます。

「他のコントローラーとの共存」の記述もご参照ください。

Pro Toolsでトラック番号を表示するには、「表示」メニュー > 「トラック番号」を選択します。

通常トラック番号は、RIDEモードでは挿入されたトラックと同じ、DUCKモードでは挿入されたトラックとは別のものに設定します。いずれにせよ、動きが不安定になるため、複数のWaveRiderでひとつのトラックをコントロールするように設定しないでください。逆にひとつのトラックに複数のWaveRiderを挿入し、それぞれ異なるトラックをコントロールすることは可能です。

(C) "Test"(テスト)ボタンを押すと、そのWaveRiderがコントロールしているトラックのフェーダーを一時的に上下に移動して示します。

(D) RIDEモードでの"soft range"(ソフトレンジ)の設定は以下を司ります:

1 - WaveRiderはこの設定値を超す一定のレベル範囲を「静か」と判断し、(F)"ratio"(ターゲットレシオ)のスライダー位置に基づいてトラックフェーダーを操作します。また、より自然な結果を実現するため、「静か」な信号は(E)のターゲットレベルに100%一致するようにはブーストされません。

2 - "SOFT RANGE"(ソフトレンジ)のスレッシュヨルドに満たない信号は無視されるため、無音部分ではフェーダーは動きません((G)"park"(パーキング)がオンの場合の動作は異なります)。例えばノイズレベルが高い音素材を扱う場合、無音部分でノイズをブーストしないようにします。

----- (G)"PARK"(パーキング)がオンの場合、入力信号が"soft range"(ソフトレンジ)の設定値に満たない時、Pro Toolsフェーダーは(H)"park level"(パーキングレベル)スライダーで設定したレベルに移行します。この際の移行速度は(L)"park / release"(パーキング/リリース)で指定します。

DUCK(ダッキング)モードでの"soft range"(ソフトレンジ)の設定は以下を司ります:

挿入したトラックのレベルが設定スレッシュヨルドを超すと(つまり信号が検知された場合)、Wave Riderはコントロールしているトラックのフェーダーを(I)"DUCKING RANGE"(ダッキング レンジ)スライダーで設定したレベルに移行します。この際の移行速度は(K)"DUCK ATTACK"(ダッキング アタック)で指定します。レベルがスレッシュヨルドに満たない時、Wave Riderはフェーダーを(H)"PARK LEVEL"(パーキングレベル)で設定したレベルに移行します。この際の移行速度は(L)"PARK / RELEASE"(パーキング/リリース)で指定します。

(D2) 通常、"LOUD RANGE"(ラウドレンジ)のスレッシュヨルドは(E)"output"(出力)と同じレベルに設定します。この設定レベルを超す信号は「大きい」と判断され、(F2)で指定したレシオで処理されます。

(E)"OUTPUT"(出力)スライダーは以下を行います:

----- このパラメーターはRIDEモードでは、トラックの目標出力レベルを設定します(実際の動作は(F/F2)"RATIO"(レシオ)設定に応じる)。デフォルト値は-20dBfsです。

----- DUCKモードでは使用しません。

(F)

RIDEモードでは、"soft range"の"RATIO"(レシオ)スライダーは、(D)"soft range"で設定したスレッシュヨルドによって「静か」と判断された信号に加えられるゲインの量を決定します。スライダーを右へ設定するほど("loose"から離れるほど)、ターゲットレベルに近づくようレベルがより多くブーストされます。

(F2)

RIDEモードでは、"loud range"の"RATIO"(レシオ)スライダーは、(D2)"loud range"で設定したスレッシュヨルドを超える信号に適用されるリダクションの量を決定します。スライダーを左へ設定するほど("loose"から離れるほど)、ターゲットレベルに近づくようレベルがより多く減衰されます。

ヒント:レシオスライダーが中央の青い点に近いほど、より厳密にターゲットレベルが維持されます。

(G)"PARK"(パーキング)がオンの場合、信号が"threshold"の(D)"soft range"指定値を下回り「無音」となった時、フェーダーは(H)"park level"スライダーで指定されたレベルに移行します。

(H) 信号が(D)の設定値を下回った場合、フェーダーはこのパラメーターの設定値に移行します。

他のコントローラーとの共存:



WaveRiderはPro Tools®のHUI対応を用いているため、それによる制約があります。

以下が現在のWaveRiderの機能性です:

- 他のコントローラーがないシステムでは、Wave Riderは32トラックまでコントロールできます。
- Euconコントローラーが接続されているシステムでは、WaveRiderは32トラックまでコントロールできます。
- Digidesign製Ethernetコントローラーが接続されているシステムでは、WaveRiderは最初の8トラックまで検知し、コントロールできます(Iconコントロールサーフェスでカスタムフェーダーを最初のバンクにロードしてある場合、WaveRiderは第2バンクを使用します)。

----- RIDEモードではフェーダーを下げる設定にすることができます。例えば"output"設定-20dBfsに対して"park level"を-40dBfsに設定することで、ゲートと同じ効果を得られます。

----- DUCKモードでは、挿入されているトラックが無音状態の間、コントロールされているトラックの出力が希望するレベルで再生するように設定します。例えば-20dBfsで出力されるボイスオーバートラックで、フルスケールで再生される音楽トラックをダッキングしている場合、このパラメーターを-10から-15に設定すると良いかもしれません。これによりボイスオーバーのない部分では適切な音量で音楽が再生されます。実作業では必要に応じて細かく調整すると良いでしょう。

(I) "DUCKING RANGE"(ダッキング レンジ)スライダーは、ダッキングされるトラックに適用されるレベル減衰量を設定します。

(J) "RIDE MODE"(ライドモード)スライダーは"CLASSIC"(リアルタイム)モードと、500ミリ秒のボリュームデータを必要とする"AVERAGING"(平均)モードを切り替えます。

"AVERAGING"モードは細かいレベル調整を抑え、よりスムーズなゲインライドを実現します。

(K) "DUCK ATTACK"(ダッキング アタック)はコンプレッサーのアタックタイム パラメーターのように、ダッキングのスピードを設定します。

(L) "PARK / RELEASE"(パーキング/リリース)は無音になった際にフェーダーが"park level"に戻る速度を設定します。このパラメーターはRIDEモードでは"park"がオンの場合のみ、DUCKモードでは常に有効です。

(M) "TRACE"(トレース)ボタンはWave Riderを「トレース」モードに切り替えます。Wave Riderは信号のRMSエンベロープに追従したボリューム オートメーションを書き込みます。

このエンベロープ「トレース」を別のトラックにコピーして、元の信号のダイナミクスを再現することができます。

例えば16フェーダーのコントローラー構成で、Pro Toolsトラック9-24がバンクにロードされている場合、WaveRiderはトラック9-16のみをコントロールしますが、これらをChannel 1-8として扱います。もし他のトラックをバンクにロードした場合、Wave Riderは新たにこれらのトラックをコントロールします。WaveRiderを使用している間、バンクをナッジしない方が良いでしょう。

— 002/003シリーズ、および他のHUIコントローラーが接続されているシステムでは、WaveRiderはEthernetコントローラーと使用する際とは反対の動作になります。WaveRiderは002/003のバンクにロードされたトラックはコントロールせず、これらのトラックの次の8トラックをChannel 1-8として扱います。コントローラーのバンクはナッジボタンでのみ行えます(バンクボタンでは行えません)。Ethernetコントローラーとの動作と同じく、ナッジによりWaveRiderがコントロールするトラックが変わってしまうため、バンクのナッジはしない方が良いでしょう。

— Command8はWaveRiderと共存できません。Wave Rider使用時には無効にしてください。



## WaveRiderの使用例:

— WaveRiderをオートメーションを書き込みたいトラックに挿入します。もしそのトラックの静かな部分がターゲットレベルより12dB以上低い場合は、WaveRiderのレベル検知アルゴリズムに通す前にクリップゲインを使ってレベルを上げてください。クリップゲインの自動調整にはDefaulterプラグインが便利です (<http://www.quietart.co.nz/defaulter>)。

— Rideモードは、ダイアログやボイスオーバートラックを適正なラウドネス値に適合させる際に便利です。編集が終わったらWaveRiderを作動させ、その間は一息休憩を入れましょう!

— ボーカルレベルを副作用なく均一化。

— コントロールが難しいベーストラックもレベルを均一化。

— Traceモードで信号に面白みを追加。トラックを複製し、片方を強くコンプレッションしたり歪ませ、それに元の信号の音量エンベロープを適用させることで、これらの信号を自然にブレンド。

— Duckモードでは、ナレーションやダイアログがある部分だけ音楽トラックのレベルを抑えられます。ボイスオーバートラックはもちろん、他のダイアログサブミックスなどからそれぞれ異なるリダクション量とアタック/リリース時間を設定して音楽トラックのレベルを制御できます。この他にも音楽ミックスなどでDuckモードをクリエイティブに活用できるかもしれません。

— Averaging (平均) モードのリアルタイム使用。WaveRiderにレベル検知を行わせるためにトラックを複製し、トラック出力は未使用の内部バスに設定します。次にこのトラック上のクリップを500ms前へ移動し、WaveRiderを挿入します。WaveRiderは元の(クリップを移動していない)トラックを制御するように設定します。

— コントローラーをご使用の場合、WaveRiderのチャンネル番号は現在制御中のバンクを参照します。バンク内のトラックをナッジングで変更した際、WaveRiderが制御するトラックもそれに従って変わります。誤ってフェーダーレベルを変更してしまわないよう、すべてのトラックにオートメーションのブレイクポイントを追加しておくことを推奨します。

WaveRiderと一緒にインストールされるプリセットは、各使用方法の開始点として便利です。ぜひご活用ください。

注: プリセットのチャンネル設定はデフォルトで"Off"になっています。

## 既知の問題:

— Wave Rider 3.0.2は前バージョンからのプリセットの一部を読み込めません。

— (PT10以下)WaveRiderをオンにした際にトラックボリュームが0ではなく、-0.2に設定されます。絶対に0にする必要がある場合(例えば0でダッキング/パーキングするトラックなど)、Trimプラグインなどで0.2dB足してください。

— もし4トラック以上同時に30分以上書き込むと(もしくは8トラックを15分)、Pro Toolsがフリーズもしくは終了してしまう事があります(PT11&12でのパフォーマンスは向上されています)。これは書き込まれているオートメーション情報の量によるものです。そのため長いセッションでは、クラッシュの可能性を低めるためにも、再生を10-15分毎に止めることを推奨します。セッションを常時監視できない場合は、QuickeysやKeyboard Maestroなどのマクロ実行アプリケーションで停止/開始を自動化することも可能です。

著作権者 Quiet Art Ltd. 2009-2016

<http://www.quietart.co.nz>

Pro Tools®はAVID technologiesの登録商標です。



AAX Developer